

OPACの評価(チェック)項目リスト

作 成 : 岡山県大学図書館員研修会

発 表 : 坪井昭訓 (岡山理科大学図書館)

発表日 : 平成19年8月25日

はじめに

岡山県大学図書館員研修会は、岡山県内大学図書館職員を中心とした有志の会で、現在参加機関18機関（県外の大学、専門学校、高校を含む）49名で構成されており、図書館に関する内容の研修や大学図書館員の交流を主として活動している。なお、上位組織はない、独立組織である。

本リストは、その研修事業の一環として、2004年～2007年度にかけて行われた小勉強会A「OPACについて考える」の研究成果である。

研修目的は、「理想的なOPACとは何か！：各図書館・メーカーのOPACの機能や使い勝手の比較を通して、OPACの評価（チェック）項目リストを作成し、理想的なOPACを研究します。」と言うものであった。

メンバーは、ノートルダム清心女子大学の土師裕子氏を中心とした6名だった。研修事業でリストを作成したが、OPACを取り巻く環境の変化等により、若干の補足が必要となった。そこで、メンバーの一人であった岡山理科大学図書館坪井昭訓が改訂したものが、今回発表するリストである。

次に発表に至る経緯についてだが、先の岡山県大学図書館員研修会の平成19年度総会で発表を行ったが、岡山県内の大学図書館職員のみであったため、直接、ベンダーサイドや、岡山県外の大学図書館、NIIなどへ発表する機会がなかった。そこで、大学図書館問題研究会にご協力いただき、平成19年度大学図書館問題研究会全国大会での発表に至った。

本リストの著作権は、岡山県大学図書館員研修会および岡山理科大学図書館坪井昭訓が持つが、個々の図書館システム等の特許や著作権に関しては調査していない。例えば、「6 横断検索や外部DBとの連携」については、MetaLibの機能を参考にさせていただいた。しかし、MetaLibの特許や著作権などについては調査していない。このため、図書館システムの特許等については、本会ならびに坪井は、責任を持たないものとする。

なお、改訂したものも含め、Web上を含め媒体を問わず掲載および公表については、先の著作権者に許可を得なければならない。

（平成19年8月 岡山県大学図書館員研修会委員長 坪井昭訓）

目次

1. 検索について
2. 表示について
3. リンク機能について
4. ヘルプ機能について
5. インターフェイスについて
6. 横断検索やDBとの連携について
7. 紀要や電子図書館サービスについて
8. 予約、現物貸借やILLとの連動について
9. 図書リストの作成について
10. レファレンスデータベースとの連携について
11. OPACの検索統計について
12. 図書館からの情報発信について
13. 他部署との連携などについて

連絡先：岡山理科大学図書館 坪井昭訓

E-Mail：tuboi@lib.ous.ac.jp

1. 検索について

- ・ 基本となる項目は検索できること。
 - ・ 誰もが調べやすいこと。
- 検索窓などは、「2. 表示について」を参照。

1-1. 検索項目

① 検索する項目名は何か。

参考 ・ 書名 ・ 著者名 ・ 件名 ・ 目次（注） ・ 抄録（注） ・ 出版社 ・ 出版年
・ 和洋区分 ・ 言語 ・ 請求記号 ・ ISSN ・ ISBN ・ 所在 ・ 新着 ・ 資料ID

注：目次、抄録は紀要のみ（オプションとなる電子図書館機能使用時のみ）

注：書名、著者名、件名はキーワードとして、一つの入力フィールドを渡って検索が可能である。（電子図書館機能使用時は、目次、抄録も加えることができる。）

注：出版社は、前方一致なのか、中間一致なのかも確認すること。

- ② 書名は、本書名その他、副書名、内容注記、親書誌、中位の親書誌などが検索できるか。また、VOLフィールドの検索は可能か。親書誌の巻号の検索は可能か。
- ③ 細かく検索したくない場合、一つの入力枠で書名・著者名・件名などの複数の項目について、フィールドを気にせず検索することは可能か。（可能な場合、一度に検索できる項目名）
- ④ 検索項目について、検索項目にする・しないを導入館で選択できるか。
- ⑤ 入力する枠の長さを設定することは可能か。また、館内用だけ。館外用だけ使用できる項目を分けて設定することは可能か。

1-2. 検索対象

- ① 検索対象となる書誌は、図書・雑誌・視聴覚の書誌だけか。紀要の目次なども可能か。
- ② 特に意識することなく、図書と雑誌・視聴覚の書誌は一緒に検索することは可能か。
- ③ 雑誌の書誌だけを検索することは可能か。
- ④ 図書の書誌だけを検索することは可能か。
- ⑤ 紀要の目次だけを検索することは可能か。
- ⑥ 図書の所蔵を検索することは可能か。
- ⑦ 雑誌の巻号を検索することは可能か。
- ⑧ オンライン・ジャーナルを検索することは可能か。

1-3. 検索語

- ① 検索語が自由語であるか。シソーラスなどで限定されている語であるか。
 - ② 入力した言葉が、前方一致で検索されるか。
 - ③ 入力した言葉が、中間一致で検索されるか。
 - ④ 入力した言葉が、後方一致で検索されるか。
 - ⑤ 入力した言葉が、完全一致できるか。
 - ⑥ 入力した言葉が、フレーズとして検索することは可能か。できるとしたら、その方法。
 - ⑦ 入力した言葉が、ワイルドカードを持つことは可能か。できるとしたら、その方法。
 - ⑧ 入力した言葉が、複数あった場合、論理積を取ることができるか。できるとしたら、その方法。
 - ⑨ 入力した言葉が、複数あった場合、論理和を取ることができるか。できるとしたら、その方法。
 - ⑩ 入力した言葉が、複数あった場合、論理差を取ることができるか。できるとしたら、その方法。
- * 検索語については、1-1①の各項目ごとにチェックすること。

1-4. 履歴やブックマークなど

- ① 履歴を残すことができるか。
- ② 履歴を更に限定することは可能か。
- ③ 履歴が、複数あった場合、論理積を取ることができるか。できるとしたら、その方法。
- ④ 履歴が、複数あった場合、論理和を取ることができるか。できるとしたら、その方法。
- ⑤ 履歴が、複数あった場合、論理差を取ることができるか。できるとしたら、その方法。
- ⑥ ブックマークされた書誌の一覧を表示することができるか。
- ⑦ ブックマークされた書誌の一覧をMailに送ることはできるか。

1-5. ヒット数やアクセス数

- ① ヒット数に上限はあるか。(〇件以上なので、検索を中断しますなど。)
- ② ヒットされた書誌の内、残したいものについてはブックマーク機能があるか。
- ③ 検索時に1ページあたりの表示件数を指定することは可能か。
- ④ 約20万冊の書誌に対して、一つの語で検索し、ヒット数が約200件あった場合の検索時間について、どの位で検索結果が表示されるか。(レスポンスの時間の目安)
- ⑤ 一度にアクセスした際の最大アクセス数。(新入生ガイダンスなどを考慮すること。)
- ⑥ インターネット上から検索は可能か。また、館内OPACとインターネット上のOPACで入力画面に違いがあるか。(6-3 ①に関連項目あり。)

1-6. オプションとして、このようなものがあっても良いのでは

- ① 件名については、検索が楽にできるように、シソーラスが入っており、キーワードを入力すると、件名標目を調べることができると便利。
- ② 件名を矢印などで、標目の関連性の表示ができると便利。
- ③ NDC9版などの分類表が入っており、そこから分類番号を調べることができると便利。
- ④ キーワードから分類番号が分かれば、なお良い。
- ⑤ 標準の書誌情報では、図書の内容から検索できないので、Webcat Plusの横断検索も合わせてできると便利。
- ⑥ その際は、一覧に所蔵の有無が出ると良い。
- ⑦ ⑥の際、所蔵データに地図画像を付けて送れると便利。
- ⑧ ⑦の際、携帯で見られるように地図画像の大きさの選択ができるものが望ましい。
- ⑨ メールアドレスとキーワードや請求記号などを登録しておく、そのキーワードや請求記号に該当したものが登録されるごとにメールが届くサービスがあると良い。
- ⑩ 対話型のOPACは作れないのか。
- ⑪ OPACを使おうとすると、学番か利用者IDを入れる様に促されて、もし延滞資料があったら、警告が出ると良いのでは。ただし、個人情報に留意したシステムであることが必須。
- ⑫ ブラウザを閉じる時に自動でjobが終了されると便利。(新入生ガイダンスなどで、同時アクセスが多い場合に、同時アクセス数を超えないようにするため。)
- ⑬ 表紙を用いて検索するようなシステムもある。(データ入力や装備など問題点も多い。)
- ⑭ 色を用いて検索するようなシステムもある。(データ入力や装備など問題点も多い。)
- ⑮ レlevanceフィードバックを用いた検索だと便利。

1-7. オプションとして、このようなものがあっても良いのでは 2

(検索ができなかった資料に対して)

- ① ヒットしなかった場合、可能性の高い文字列に置き換えて検索することができると便利。
例えば、Wiindowsは、「Windowsで調べますか。」など。(検索サイトでやっている。)
- ② 検索した後に、満足度調査ができると、良いかも。とくに満足しなかった際のキーワードをコメント付きで図書館宛に送ることができると、そのキーワードを何で調べれば良いかレファレンスに通じるので便利かも。
- ③ 検索できなかった図書や雑誌について、見つかりませんでしたと言う画面から図書館へ「この図書はありませんか？」と調査依頼を出すことができると良い。
(名前、所属、学生なら学番、連絡先(携帯番号か携帯Mail)は必須。直接入力よりは、IDとパスワードで管理の方が望ましい。大学院生・教員だけでも可。この必須項目は図書館で設定が可能。)

2. 表示について

- ・ 分かりやすいこと。
- ・ 見やすいこと。

2-1. 検索画面

- ① 詳細な検索画面にしなくても、掛けあわせて検索できること。(1-1. ③参照)
- ② 【ヘルプ】や【検索】、【クリア】といった表示が分かりやすいこと。
- ③ 入力する枠の長さを設定することは可能か。また、館内用だけ。館外用だけ使用できる項目を分けて設定することは可能か。(1-1. ⑤参照)
- ④ 検索窓を、図書館システム以外の図書館サイトに簡単に付けられるか。
- ⑤ 検索窓を、図書館以外の大学のサイトに簡単に付けられるか。
- ⑥ 検索窓を、利用者などが個人のサイトに簡単に付けられるか。

2-2. 書誌一覧表示

- ① 一覧表示については、どの様な項目が表示されているか。
- ② 検索結果を自由に並べ変えることができるか。(出版年順、書名順、シリーズはシリーズ番号順など)
- ③ 資料の種別が分かるか。
- ④ 資料種別ごとに表示されるか。
- ⑤ 件数表示を自由に設定できるか。(件数が多い場合、表示されるまでの時間が短いこと。)
- ⑥ 次ページ、前ページへのリンクが分かりやすく表示されているか。
- ⑦ 一覧表示に、所蔵があるvolの値が表示されるか。
- ⑧ ⑦で複数volがある場合は、最初のvol～最後のvolが表示された方が良い場合もある。
- ⑨ 一覧表示の刊年は、PUBの出版年の値が表示されるか。

補足：⑦、⑧については小六法など、毎年発行される資料がどの様に表示されるか確認すること。

- ⑩ 検索キーワードが表示されているか。
- ⑪ 検索に使われたキーワードの部分は、色が付いたり、反転されたりすると良い。
- ⑫ 書誌一覧に、所蔵情報をつけることができるか。
- ⑬ 書影が見られる様にしてはどうか。ただし、装備など問題点も多い。

2-3. 書誌詳細表示（書誌情報部分）

- ① 個々の書誌の表示については、どの様な項目が表示されているか。
- ② 個々の書誌の表示については、項目毎に項目名を表示して、表示しているか。
- ③ 項目名は、利用者にとって分かりやすいか。(責任表示など)
- ④ 書名が分かりやすい表示になっているか。
- ⑤ 検索キーワードが表示されているか。
- ⑥ 検索に使われたキーワードの部分は、色が付いたり、反転されたりすると良い。
- ⑦ 一覧や、検索のトップにすぐ戻れるか。
- ⑧ 一覧→詳細画面→一覧画面 と言った行程を経なくても、前後の詳細画面が見られるようにリンクが貼ってあるか。

2-4. 書誌詳細表示（所蔵情報部分）

- ① 資料の状態が分かること。(禁退出や貸出中、製本中、整理中など。)
- ② 書架の地図が表示できるか。

2-5. オプションとして、このようなものがあっても良いのでは。

- ① 標準の書誌情報では図書の内容が分からないので、図書の内容を見るのリンクを押すと、Webcat Plusの情報が見られると便利。なお、必ずしもWebcat Plusではなく、紀伊国屋書店のBook Web等でも良いが、商用データベースは使用許諾などを確認すること。
- ② 学生が作ったPOPや、教員の推薦文などが見られると良い。(なお、全文が出なくてもリンクでも良い。リンクの方が良い場合もある。)
- ③ 書誌詳細画面でも、そこから検索ができるように検索窓があると良い。

- ④ 画面を縦に2つに分けて、左に検索窓+検索履歴、右に検索結果が出せるようになると便利。
 - ⑤ ④を作るなら、左の検索窓+検索履歴は対話型の方が良いのでは。
 - ⑥ ⑤を作るなら、最初に学番を入れると、My Library画面がポップアップで出ると良い。この場合は、個人情報に留意する。
 - ⑦ いつでも、その日の開館時間など、図書館カレンダーが見られると便利だと思う。
 - ⑧ お知らせしたい事項はバーナーの様な形で、いつでも目に付くような場所にあると良いのでは。
 - ⑨ VTフィールドは、検索用だけに入力されているものもあるので、目録作成時にOPACで表示するか否かを選べるようにしてはどうか。
 - ⑩ CWやVT、ALフィールドは一定の行数を超えると、「+」を押さないと表示しないようにできないか。
 - ⑪ 書影が見られる様にしてはどうか。ただし、装備など問題点も多い。
 - ⑫ ヒットした著者ごと、出版者ごと、分類ごとなど、ファセット・クラスタリングを用いた表示が一覧でできると便利。
- * 電子図書館機能については、「7. 紀要や電子図書館サービスについて」を見ること。

3. リンク機能について

→ 横断検索などは、「6. 横断検索や外部DBとの連携について」を参照。

3-1. 標準

- ① 著者・件名などの典拠情報を活かすリンクが備わっているか。

3-2. オンライン・ジャーナルなどとの連携

- ① ジャーナルのタイトルなどをクリックすると、オンライン・ジャーナルの画面に行くことは可能か。できるとしたら、制限を設けることは可能か。（館内のみ・学内のみなど）
- ② ジャーナルの巻号などをクリックすると、出版社の巻号目次の画面に行くことは可能か。できるとしたら、制限を設けることは可能か。（館内のみ・学内のみなど）

3-3. オプションとして、このようなものがあっても良いのでは。

- ① Webから使える資料は、その書誌情報からWeb版へのリンクが張ってあると便利。特定のソフトやパスワードが必要な場合はその旨もそこから見ることができると、なお良い。
- ② 学内でCD-ROMサーバがあり、研究室などの端末から利用が可能だった際に、タイトルをクリックすれば、CD-ROMを使うことができると便利。特定のソフトやパスワードが必要な場合はその旨もそこから見ることができると、なお良い。

4. ヘルプ機能について

- ・ 分かりやすいヘルプであること。

* この項目は「このようなヘルプがあっても良いのでは。」と言うものも混ざっている。

4-1. ヘルプ内容

- ① 利用者が理解しづらい専門用語が使われていないか。
- ② ヘルプ内容に合ったヘルプ項目名があり、それぞれの項目が体系立てて並べられているか。
- ③ 説明にはイラストや表やハイパーリンクが用いられ、理解しやすいように工夫されているか。

4-2. ヘルプへのアプローチ

- ① OPACのすべての画面に、その画面や、その画面に表示されている言葉に対するヘルプへのアプローチ（ハイパーリンクなど）が用意されているか。
- ② 入力フィールドやボタンがクリック可能になっていて、ヘルプへのアプローチ（ハイパーリンク、ヘルプそのもののポップアップなど）が用意されているか。
- ③ ヘルプの項目を通覧できるメニューがあるか。
- ④ 自然語によるヘルプの検索機能が用意されているか。

4-3. ヘルプ後のナビゲート

- ① ヘルプを見た理解度にあわせて、その後どの画面に進むか（どのヘルプを読むか）が選択できるか。
- ② 適切なヘルプが得られなかった利用者のために、問い合わせ先が明記、あるいはsendmeilメニューとして用意されているか。

4-4. 初めて使う方へ

- ① 初めて使う際の簡単な説明（1分ほど）を画面で見ることができる。（理想）

5. インターフェイスについて

- ・ 利用者にとって使いやすい環境であること

5-1. 入力(方法)について

- ① キーボードから入力ができるか。
- ② タッチパネルからでも入力ができるか。
- ③ ソフトウェアキーボード入力ができるか。

補足： ②、③は必ずしも必要ではない。

5-2. 出力(方法)について

- ① 検索結果を印刷することは可能か。
- ② ①に検索日時や検索キーワードを印刷することは可能か。
- ③ 検索結果をファイルに出力できると便利。
- ④ 検索結果をメールで送信可能か。
- ⑤ 検索結果を携帯電話へも転送可能か。

5-3. その他

- ① WWWで利用できるか。
- ② 携帯電話からも利用できるか。
- ③ 検索結果表示に加えて、その資料の所在情報が分かりやすい形式(画像)で表示できると便利。

5-4. オプションとして、このようなものがあったら良いのでは。

- ① 音声によるガイドも提供されると便利。
- ② 図書館でのOPAC端末にはカメラが付いていて、椅子に座ったら自動で立ち上がり、椅子を立って、数秒後には自動で初期画面に戻ると個人情報保護など運用面で便利。

ここからの項目は、岡山県大学図書館員研修会での作成時は、「おまけ・オプション機能」としてまとめていたが、大学図書館問題研究会全国大会の発表時に7～13の大項目を作った。
有料オプションの機能もあり、導入館のサービス状況に合わせて、導入を検討すること。
また、内容としては、従来のOPACに無い機能も多く、これから進化していく部分である。

6. 横断検索やDBとの連携について

- * 例えば、ユサコのMetalibは、6を実現しているシステムであるが図書館のOPACとは別のシステムである。導入にあたっては、図書館システムとは別のシステムとしても検討する。
- * 開発については、図書館システムに組み入れて欲しい。

6-1. 総論的なについて

- ① 検索方法が簡単か。
 - ② 検索項目を意識することはないか。
 - ③ 和図書や洋図書など、資料種別を意識することはないか。
 - ④ 図書、雑誌、論文などの違いを意識することはないか。
 - ⑤ 原文をすぐに手に入れることはできるか。
 - ⑥ これらの流れがネット上で行えるか。
- * ③から④は、ユーザにとっては区別して使う場合と、どの資料でも良い場合とがある。

6-2. 他機関との横断検索について

- ① Z39.50のソフトが入っているか。
 - ② Z39.50以外の方法で横断検索が可能であるか。
- 補足： 横断検索は、使用館が属する組織が、どの様な横断検索を行いたいかによって、ソフトなどが異なる場合がある。ここでは、最も使用が多いと思われるZ39.50を挙げたが、自館のシステム以外を利用することも多く、そのシステムで利用できるかどうかについては、横断検索の母体となる機関のシステムに依存する。

6-3. このような他機関との横断検索があっても良いのでは。

- ① Web-CATとの、横断検索ができる。
- ② Web-CAT Plusとの、横断検索ができる。
- ③ NDLOPACとの、横断検索ができる。
- ④ 5-2 ①～③以外の機関・システムに対し、横断検索ができる。
(県内の公共図書館や、地域や関連大学との横断検索を行っている場合、どの様なシステムで運用されているかを確認する必要がある。)

6-4. 外部データベースやWebとの連携

- ① 国立国会図書館のNDL-OPAC 雑誌記事索引やPubMed、Medical Online など複数のデータベースの横断検索を行い、検索された論文が、所蔵するかどうか分かること便利。
- ② HighWireやScienceDirectなどのオンライン・ジャーナルのパッケージとも連携が取れれば良いな。
- ③ 機関リポジトリとも連携がとれると良いのでは。
- ④ Googleなどとも連携がとれると良いのでは。

7. 紀要や電子図書館サービスについて

7-1. 紀要

- ① 紀要の全文を表示することは可能か。可能な場合、PDFか。
- ② 紀要の全文に対して自然語で検索することは可能か。
- ③ 紀要の抄録に対して自然語で検索することは可能か。
- ④ 紀要に対して統制語(キーワード)で検索することは可能か。
- ⑤ 紀要の目次に対して自然語で検索することは可能か。

8. 予約、現物貸借やILLとの連動について

8-1. 現物貸借やILL

- ① 現物貸借・ILLなどがOPACを通じて行えるか。
- ② その際、複数の費用が使えるか。
- ③ 教員に応じて費用が使い分けられると、なお良い。

8-2. 予約など

- ① 図書の予約ができるか。
- ② 図書のリクエストが出せるか。（関連項目 1-7 ③）

9. 図書リストの作成について

- ・ 大学の講義では、教員も学生も参考文献リストを作ることがよくある。

9-1. 図書リストの作成について

- ① 自分が調べたもののリストを作成することができると便利。また、一回ログアウト後でも、IDとパスワードを入力すれば見ることができる。
(研究室のみで使用可能など。場所によって設定が可・不可ができることが望ましい。)
- ② 書誌に対してコメントが付けられ、またその集合を作ることができると便利。
(教員や図書館職員が、特に読ませたいものにはコメントが付けられる。なお、コメント付きの図書だけを集めて、教員からのおすすめなどを作ることでもできると良い。)
- ③ 簡易リスト作成の機能があるとレポート必読書などのレジュメを作る際に便利。また、単にリストを作るだけでなく、リストのタイトルや「所蔵」などのボタンをクリックした際に、書誌画面が表示され、貸出状況を確認できると、より良い。

10. レファレンスデータベースとの連携について

10-1. レファレンスデータベースとの連携

- ① レファレンスデータベースを作成し検索することができるか。
- ② 国立国会図書館が行っているレファレンス協同データベースとの連携ができると便利かも。
- ③ 「図書館に聞く！！」ができると便利。

補足：利用者が入力した質問に対して、図書館でこの文献を見なさいとか。これは、この分野の棚を見なさいと言ったアプローチをする。ただし、学内構成員のみ利用可能で（ID・パスワードでの管理）で質問のみ。答えは職員が行う。

カウンタに来なくても聞ける分、質問を出しやすく答えも大勢の方が見ることが可能。質問が来た当日中に応えられる範囲の回答を出しておく。それ以降の回答については、まとめ次第。

利用者が質問事項を見るタイミングは、回答が入力され、責任者の承認が出たときとする。

回答については、メルアドにも届くように設定が可能。

レファレンスデータベースについては、カウンタで「質問された内容。回答に使った図書」だけでも入力しておくようにする。（メールやフォームからの質問が可能でも、カウンタでの質問事項は入力しておかなければならない。）

「図書館に聞く！！」と言ったレファレンスに特化しておくことで、職員の外部記憶装置として、カウンタでの回答の補助にもなる。通常、レファレンスデータベースはOPACと切り離されるが、職員も利用者もまずはOPACを調べるという手順をふまえているなら、レファレンスデータベースも検索できるようにした方が素早い回答に繋がる。

1 1. OPACの検索統計について

1 1-1. 検索の統計が取れる。

- ① 検索したキーワードの1日ごとの統計を取ることができると便利。この上位に含まれているものは、課題図書の可能性が高いため、特定のタイトルなどは即購入などの手段が取れる。また、該当なしだけは、別に該当なしでの順位付けを作ることができる。図書館に所蔵していない図書についてのニーズの把握が行えるため。

1 2. 図書館からの情報発信について

1 2-1.

- ① RSSを使った資料の情報発信が可能である。
- ② 図書館システムのAPI公開が可能である。
(図書館システムのAPI公開については、サーバの負荷やセキュリティを十分考慮した上で行わないといけない。)
- ③ メールアドレスとキーワードや請求記号などを登録しておく、そのキーワードや請求記号に該当したものが登録されるごとにメールが届くサービスがあると良い。(1-6 ⑨と同じ)

1 3. 他部署との連携などについて

1 3-1. 他部署との連携などについて

- ① 他部署が必要とする図書の案内を送ることができると良い。これは、1-6 ⑨のキーワードとMailの登録が可能であれば、その応用で可能です。
 - ② シラバスとの連携。シラバスには、教科書や参考書のリストを掲載してあるが、図書館としては、何が掲載されるのかといった情報をいち早く知る必要があり、また、学生にもこの図書が図書館にあるのかどうか知りたいというニーズがある。何とかシラバスのデータベースを図書館機能として取り込めないだろうか。
 - ③ 就職カレンダーや教育実習、病院実習など学内の行事予定、あるいは資格申込などと連携させて、それに関する資料を使うように促せないか。
 - ④ 他部署から、学生へのお知らせもMy Libraryで表示できないものか。
 - ⑤ 理想を言えば、図書館のお知らせも、シラバスも、休講情報も、他部署のお知らせも見られる、そう言った学内での学生が必要とする情報が一度に見られるサイトとして、学内ポータルサイトがあるのが、学生にとっては望ましい形ではないか。
- * 他部署と連携したシステムを構築した場合、メンテナンスの費用や更新などに十分な審議・調整・主導権の決定などを経て行った方が良い。

作成： 岡山県大学図書館員研修会
発表： 坪井昭訓 (岡山理科大学図書館)
発表日： 平成19年8月25日

岡山県大学図書館員研修会

連絡先： 岡山理科大学図書館 坪井昭訓 (平成19年度委員長)
E-Mail: tuboi@lib.ous.ac.jp